

モンリオールの空は青くて広いなあ、と空を見上げるたびに思います。モンリオール市の真ん中には小高い丘があり、頂上に十字架が立っています。建物の高さはこの十字架を超えてはならないという法律があるため、ずーっと下って低地に建てたとしても、ビルは40階止まり位になってしまうようです。そのせいか、この丘から見渡す風景も、空もとても広いのです。この丘は自然公園になっていて、ニューヨークのセントラルパークと同じ造園家のデザインによるものです。

空も素晴らしいですが、皆の笑顔も街を豊かにしているように思います。行き交えば、人はさりげなく笑顔を交わします。

さて、今日はこんな街を後にして、モンリオールの繁華街から高速道路を45分ほど行った、リシュリュエ川のほとりに住む友人宅を数人のおばさんたちと訪れることにしました。おっと、体の不自由なおばさんに付き添う優しいおじさんが一人いました。ゆったりと優雅に流れるリシュリュエ川はやがてセントローレンスの大河に合流します。

友人宅のあたりは、川から道路沿いに一步入っただけなのですが、緑に囲まれた桃源郷のような別世界なのです。52軒の家からなる共同体なのだそうです。平いコンドミニウムでしょうか。一軒一軒の庭は広大で、敷地は千坪は優に超えているのでしょうか。家は小さいな平屋で(と言っても150坪くらいはあると思います)、裏庭はまるで運動場のようです。厳しい契約と条件のもとに土地や家を買って住み、静かに子育てをしたり老後の生活を楽しみながら暮らしているのだそうです。

一角には子供用の公園が2つとプールがあります。共同体の必要経費は、土地の一部を農耕地としてレンタルし、その賃貸料でまかなっているのだそうです。賢い工夫のお陰で、共同体の維持費の年間の支払いは、夏のプールの監視人の給料としての負担額だけだそうです。豪華なイタリアンマフィアのような金ぴかな家は一切無く、治安は守られ、控えめに自然の中で暮らすライフスタイルが、何とも余裕で洒落ています。現在のカナダの首相ジュステイントルドーの父親、ピエールトルドーが首相の時に企画にしたものだそうです。

友人宅は、ノルマンディ出身のフランス人のカップルで、ご主人は企業向けの鍵屋さんだそうです。手先がともかく器用な人らしく、家具はほとんど手作りです。陶芸の趣味を持ち、台所の引き出しの引き手なども手作りの瀬戸物です。家の中には、ご主人が好きな日本の影響か、手作りの、さりげない違い棚つきの床の間があります。おや、その前には、畳が目立たないように敷かれています。見事なハーモニーです。

庭のプールで泳いでいるのは、20~30匹の色とりどりの鯉でした。蓮の葉や花の間を見え隠れしています。

「僕たちが泳ぐより良いかなあと思ってちょっと改良してみたんだ。」

と、ニコッと餌をやりながら微笑む友人の夫の一言。

広～い庭の散策の後は、木陰で、音楽など聞きながら持参のお弁当でランチです。何やらいつものまにか口ゼがつがれ、ほろ酔い加減になりました。オペラ風の歌はこうなると耳には入らず、鯉のように口は、やたらとおしゃべりでパクパクするばかりでした。

「うちの亭主は、人の鍵は作るくせに、自分の家の鍵はかけないのよね。泥棒にはいられたことがあるんだから、どうしようもないわよね。」と友人。

「そんなものかも。うちの亭主は獣医だけで家の猫の手当てはしないから。どうしようもないわよね、やっぱり。」そっと二人で忍笑い。

あるパーティでこの友人の夫に我が家の夫を紹介したことがるのですが、

「ボンジュール」

「ボンジュール」

え、！それだけ？二人のフランス人の会話はそこで終わってしまい、二人は右と左にわかれてしまったのです。孤島に人が二人しか居ず、それがフランス人同士なら、孤島の端と端にわかれて暮らし、永遠に交わることも助けあうことないだろうと良く言われます。とかくフランス人とは住みにくいものかもです。